

小学校国語科における知識・技能の活用を

図ることをねらいとした問題の作成

《補助資料目次》

| | |
|--|----|
| 【補助資料1】 基礎的・基本的な知識・技能の活用を図ることをねらいとした問題 | 1 |
| 【補助資料2】 小学校国語科「活用問題」を利用するに当たって | 2 |
| 【補助資料3】 小学校第六学年「インタビューをしよう」（話すこと・聞くこと） | 4 |
| 【補助資料4】 小学校第五学年「意見を伝えよう」（話すこと・聞くこと） | 10 |
| 【補助資料5】 小学校第六学年「新聞記事を書こう」（書くこと） | 14 |
| 【補助資料6】 小学校第五学年「推薦する文章を書こう」（書くこと） | 18 |
| 【補助資料7】 小学校第六学年「朗読を工夫しよう」（読むこと） | 21 |
| 【補助資料8】 活用問題一覧表「A 話すこと・聞くこと」 | 27 |
| 【補助資料9】 活用問題一覧表「B 書くこと」 | 28 |
| 【補助資料10】 活用問題一覧表「C 読むこと」 | 29 |

表紙裏の余白ページです。

『基礎的・基本的な知識・技能の
活用を図ることをねらいとした問題』

岩手県立総合教育センター

1 はじめに

本県の義務教育では、「全ての児童生徒一人一人に基礎・基本の定着を実現していく」ことを目標にしています。

総合教育センターでは、『基礎的・基本的な知識・技能の活用を図ることをねらいとした問題』（以下「活用問題」と表記）を作成し、提示することを通して、児童生徒への基礎・基本の定着を支援しようと考え、本資料にまとめました。

2 「活用問題」の作成に関する基本的な考え方

(1) 本県における基礎・基本の定着について

本県においては、基礎・基本を、読み・書き・計算といった学習基盤の育成及び各教科等における基礎的・基本的な知識や技能の習得とともに、その知識や技能を活用して人間として社会人として生涯学ぶことができ、自らの人生を切り開いていくために必要な能力（思考力・判断力、表現力等）をとらえています。（平成二十二年度学校教育指導指針より）

このことから、基礎・基本の定着を目指すために、基礎的・基本的

な知識・技能を確実に習得させるとともに、それらを活用する学習活動を手立てとして、思考力、判断力、表現力等を育成することを目的とした授業を実践することが求められています。単元構想に「活用」を意識した学習活動を意図的に位置付けていくことが大切です。

(2) 「活用問題」とは

「活用問題」とは、学習指導要領を基に、知識・技能を活用して、思考力、判断力、表現力等を育むことを目的とした問題です。

そのために、「活用問題」は、必要な情報を取り出したり、根拠を持つて考えたり、自分の考えを説明したりするなどの言語活動に取り組めるよう構成しています。

(3) 「活用問題」を利用するに当たって

「活用問題」は、知識・技能の活用への習熟を図るために利用することを想定して作成しています。

児童生徒は、「活用問題」を授業や家庭学習などで繰り返し取り組むことによって、知識・技能を活用することに習熟していきます。また、問題の「正答例と解説」を通して、知識・技能を活用する手立てを確認したり、活用することで確かな習得がなされたりします。

また、教師が児童生徒の解答状況から授業実践を振り返ることによって、授業改善にもつながり、児童生徒への基礎・基本の定着を図ることができると考えます。

小学校国語科

『活用問題』を利用するに当たって

岩手県立総合教育センター

問題作成に当たっての基本的な考え方

平成二十一年度に当センターで作成した「知識・技能の活用を図る学習活動に関する展開例」では、国語科における「活用」を次のようにとらえています。

- (1) 既習内容を使いながら、自分の考えをまとめ表現する学習活動
- (2) 互いに考えを交流し、評価し合う学習活動
- (3) 物事を関連づけたり、整理したりしながら課題に取り組む学習活動
- (4) 様々な文章や本に接しながら、身に付けた言語能力を発揮する学習活動

当センターでは、学習指導要領とこの「活用のとらえ」に基づき、「活用問題」を作成しています。

使用場面

「活用問題」を使用するに当たっては、次のような場面を想定しています。児童の実態や教材との関連に応じて選んだり、より適切な場面を見つけたたりしてお使いください。

○ 家庭学習や朝自習で使用する

授業内容そのものや授業で扱う領域と関連した課題、あるいは既習内容の復習のための課題として、家庭学習や朝自習等で使用することができます。

同じ問題や同じ領域の問題に繰り返し取り組むことで、

知識・技能の習得や活用することへの習熟を支援することができます。

○ 単元の終了直後に使用する

単元の終了後に、学習した知識や技能が児童に習得されているか確かめたり、習得を補強したりするために使用することができます。

同じ領域や言語活動から「活用問題」を選ぶことで、児童は直前までの学習活動で習得した知識・技能を活用することになります。「活用問題」への取り組みの様子や解答の内容から、習得の状況を判断する材料を得ることができます。

○ 予習で使用する

学習に入る前に、予習として「活用問題」に取り組むことで、習得するべき知識・技能を意識化するために使用することができます。

知識・技能を意識化して授業に取り組むことで児童は学習活動に見通しを持ちやすくなります。このことから、児童の学習意欲を喚起したり、知識、技能の習得と活用が円滑に行われるための支援につながります。

○ 授業場面で使用する

単元の学習に「活用問題」を補助的な教材として組み入れることができます。

授業の中で比べ読みをするためのテキストとして使うことで児童の読み取りを支援したり、児童の習得が不十分だと判断される部分を支援したりするために使用することができます。

問題について

次の問題の基本構成を基に配慮事項を盛りこみながら、時間設定を10分として「活用問題」を作っています。

「正答例と解説」とあわせて使うことで、児童は問題にこめられた意図を理解しながら、基礎・基本となる知識や技能を活用することができます。

読する文章を書くこと (書くこと)

目標時間 10分

詩「七つの子」をくわしく調べ、友だちに推薦する文章を書くことにしよう。うちに鈴木さんは、【資料A】・【資料B】の二つの解説文を見つけた。問いに答えよう。

【資料A】

「七つの子」とは「七歳の子」という意味です。野口雨情が息子さんと裏山に行ったとき、カラスが鳴いていました。その声を「かわいい」と鳴いているのだと、雨情は教えた。また、雨情は、一時的に息子さんと別れて暮らさなければならなかった。息子さんはまだ七歳でした。

野口雨情は、大切な息子のことを心配に思い、カラスの親子を合わせながら、この詩を書いたのです。

【資料B】

「七つの子」とは「七羽の子」という意味です。野口雨情は、次のように考えていました。

人に嫌われているカラスだって、本当はかわいらしい生き物だ。子どもが読む詩の中に生き物を区別するような考え方をいれない。

雨情は、自然や命、そして子どもを何より大切に考える人です。ですから、カラスのことを人間の子どもをかわいがるようになさして、「可愛」「丸い眼をほしい子」と表現したのである。

配慮事項 2

- 複数のテキストを示すことで、読み比べながら問題に取り組むことができるようにしてあります。

配慮事項 1

- 記述に当たっては、字数や内容に対する条件を設定してあります。
- 条件にそって自分の考えをまとめたり、表現する経験が積んだりすることができま

配慮事項 3

- 学級会や手紙を書く作業のように、学校の授業や日常生活をもとに出題の場面を設定してあります。
- 場面を設定することで、児童は目的意識や相手意識をもって問題を解くことができます。同時に、問題を解く必然性を高めることもねらっています。

問題の基本構成

- 問題は、指導要領における「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」の3領域に対応しています。また、問題によっては領域を横断して出題しています。
- 問題は、主に次の3観点に基づいて作成しています。

- ① 情報の取り出し
- ② テキストの解釈
- ③ 熟考・評価

これらを組み合わせることで、児童は順を追って思考することができますようになります。

小学校第五学年 国語「役割にそって話し合おう」(話すこと・聞くこと) 目標時間 10分

○ 五年二組では、児童会の「あいさつ運動」への取り組みを通して、あいさつのさかんな学校づくりを進めることになりました。代表委員の遠山さんの提案を受けて、具体的な取り組みを決める学級会が行われています。【提案文】と【話し合いの様子】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【提案文】

同じ登校班の下級生に、あいさつを教えていく取り組みを提案します。まず、私たち五年二組が、下級生の手本になるようにあいさつをします。次に、下級生に、あいさつすることを教えます。最後に、あいさつをした下級生をほめます。

このように、あいさつの手本を示し、下級生に教え、下級生のあいさつをほめることで、あいさつのさかんな学校をめざす取り組みを提案します。

【話し合いの様子】

司会 児童会の「あいさつ運動」を通して、あいさつの盛んな学校をめざしていきます。今日は、学級として具体的にどのように取り組んでいくかを決めます。遠山さん、提案して下さい。

遠山さん (【提案文】を読む)。

司会 今日、話し合いを四つに分けます。まず、あいさつの手本について。次に、あいさつをどう教えるか。その次に下級生のあいさつをどうほめるか。最後に、そのほかに気をつけてい

小学校第六学年 国語 「インタビューをしよう」(話すこと・聞くこと)

○ 中央小学校の放送委員会では、新しく着任された先生方にインタビューし、昼の放送で紹介することにしていきます。佐藤さんたち放送委員は、新しくいらした校長先生にインタビューして、その様子を録画しました。
次の【インタビューの様子】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【インタビューの様子】

佐藤さん 校長先生、ようこそ中央小学校へおこし下さいました。今日はよろしくお願いします。

校長先生 よろしくお願ひします。

佐藤さん 校長先生は、すてきな趣味をおもちだそうですね。紹介していただけますか。

校長先生 いいですよ。まず、これです。(大きな物を取り出して) 何だか分かりますか。

佐藤さん 分かりません。とても大きいですが、それは何ですか。

校長先生 これは、パドルです。川や海にカヤックという船をうかべて、このパドルでこぐのです。よいしょ、よいしょ、ってね。(何度かこいで見せる)

佐藤さん それは楽しそうですね。カヤックには、一人で乗るのですか。

校長先生 一人で乗ることが多いですね。湖に行くときなどは、つりざおを持って行って、魚をつるんですよ。家族はその魚を食べるだけで、カヤックにはあまり乗ってくれません。

佐藤さん ア 校長先生は、私たちと同じ中央小学校を卒業されたそうですね。

校長先生 はい、そうです。

佐藤さん

校長先生は私たちの先輩なのでですね。とても光栄に思います。それでは昔の中央小学校についておたずねします。昔の中央小学校の全校児童は、何人ぐらいだったのですか。

校長先生

だいたい二千人ほどでした。学級も、一学年あたり十学級もあつたんですよ。

佐藤さん

イ 今は一学年に四学級ですから、とても多いですね。昔は、休み時間をどうやって過ごしていたのでしょうか。校庭が混み合つて大変だったのではありませんか。

校長先生

外でドッジボールをしたり、Sケンといつて、地面に線を引いて宝物を奪い合うゲームをしたりしていました。いろいろな学級や学年の人たちが入ってきて、ひとつの遊んだりはしなかつたんですよ。ですから、せまいけれども、そんなに困つ

佐藤さん

なるほど。一つの遊びを大勢でやると、校庭を広く使えるんですね。

校長先生

そうなんです。

佐藤さん

校長先生は、外で遊ぶことが多かったのですか。

校長先生

はい。晴れた日は外で飛び回っていました。雨の日には、本を読んだり、うでずもうをしたりしていました。とにかく遊ぶのが好きな子どもでした。

佐藤さん

今の中央小学校にも、外で遊ぶのが好きな人がたくさんいます。今も昔も、子どもは同じということですね。

校長先生

そうですね。今の中央小学校の子どもたちも、外で遊ぶのが好きだというのは、とてもうれしいことですよ。

(インタビューは続く)

一 佐藤さんは、どんなことに気をつけてインタビューをしていますか。

次の**1**から**5**までの中から、あてはまらないものを一つ選び、□に書きましょう。

- 1 ていねいな言葉づかいで話すこと
- 2 事前の取材をもとに話すこと
- 3 自分の考えをはっきり話すこと
- 4 インタビュ어의内容をまとめながら話すこと
- 5 相手の話を受け止めながら話すこと

小学校第六学年 国語 「インタビューをしよう」

○ 正答例

一
3

二 (1) アは相手の話を受けずに話題を急に切りかえているが、イは話を受け止めて質問し、話題が広がっているから。(五十字)

(2) すてきな趣味なのに、残念ですね。
話は変わりますが、校長先生は私たちと同じ中央小学校を卒業されたそうですね。

○ この問題で身につけてほしい力
○ 相手の意図に気がつけながら、適切に話す力

○ 考え方
一 問題の項目1から5に書かれていることは、インタビューをする際にとっても大切な内容です。

5 4 3 2 1
1 ていねいな言葉づかいで話すこと
2 事前の取材をもとに話すこと
3 自分の考えをはっきり話すこと
4 インタビューの内容をまとめながら話すこと
5 相手の話を受け止めながら話すこと

このインタビューは、新しく着任された校長先生を、昼の放送を通して全校で紹介することが目的です。
佐藤さんは、1、2、4、5に気をながら、校長先生の人柄を引き出すように工夫して話しています。
ただし、3については、ひかえてインタビューを進めています。佐藤さんが自分の考えをはっきりと話すことより、校長先生のお話を少しでも多く届ける方が、目的に合っているからです。

二 (1) インタビューは、基本的に「相手から何かの情報を引き出す」活動です。

(2)

つまり、インタビューでは、相手の話を受けて話題を広げていくことが大切になります。このような姿勢でのぞむことで、内容が豊かになるからです。
このインタビューでは、佐藤さんはアの部分で話を受けず急に話を切りかえてしまいました。それに対してイでは、相手の話題を受けて、上手に話をふくらませています。

時間などの問題で、話題を切りかえなくてはならない場合があります。そういうときには、相手に断りを入れてから話題を変え、インタビューを進めます。
このような場合は、正答例のように話せばよいでしょう。

○ 相手の話を受け止める
すてきな趣味なのに、残念ですね。
○ 断りを入れる
話は変わりますが、校長先生は私たちと同じ中央小学校を卒業されたそうですね。



このインタビューの中では、校長先生がカヤックのパドルを持つてきて下さっています。
なぜ持つてきて下さったのか、分かりますか。
これは、もう一つの大切な仕事を、佐藤さんたち放送委員が事前に行っていたからなのです。

インタビューを申しこみ、相手と打ち合わせをする。

インタビューを申しこむとき、目的や質問したい内容等を相手に知らせ、相談するのです。
このような取り組みをすることで、相手もインタビューする側も安心して本番をおこなうことができます。結果的に、より内容の深いインタビューにつながることが多くなります。

小学校第五学年 国語 「意見を伝えよう」(話すこと・聞くこと)

目標時間10分

○ 大谷さんたち新聞係は、親子キャンプの様子を学級新聞にまとめています。次の【記事】は、学級新聞の一部分です。【記事】と【意見A】・【意見B】を読み、あとの問いに答えましょう。

【記事】

ア



午後三時から夕食作りがはじまりました。メニューは、どの班もカレーライスです。私たちが家の人に、いつも食事を作ってもらっています。だから、自分たちの力でカレーを作り、感謝の気持ちをこめて、ごちそうすることにしました。かまどの係は、細かく切った牛乳パックに火をつけていました。なかなかまきに燃えうつらないので、調理チームは、お母さん方から、おどろきの声があがるほどの前で、家庭科の時間に練習しておいたのが、よかったです。親子でおいしかったカレーを、親子でおいしかった。ほかに、味見をしたがる人がきて、行列ができるほどでした。あるお母さんは「自分たちで成長が感じられるのはうれしい。息子のなりました。」と話していました。つげすように「家でも、時々やっきな笑いが起こりました。大ま子で食べる夕食の時間は過ぎていき

【意見A】

ア

に入るこの記事の見出しは、「笑顔の夕食作り」がいいと考えます。新聞の見出しは、ぱっと見たときに、記事の内容の大体が分からなくてはいけません。この記事の内容は、夕食作りがうまくいった、ということだと思えます。そこで、うまくいった、ということを笑顔と言い換えて、記事の見出しにまとめてみました。

【意見B】

ア

入るこの記事の見出しは、「家でも時々」がいいと思います。新聞の見出しは、読む人の興味や関心きょうみをひと目で引きつけるようなものであるべきです。「家でも時々」何をするのか、ということ、読み手を引きつけることができるだろうと考えました。また、記事の山場から見出しを作ったので、読んだ後に、なるほど、と思ってもらえるはずです。

小学校第五学年 国語 「意見を伝えよう」

○ 正答例

一 【意見A】

(ぱっと見たときに、) 記事の内容の大体が分かる (という工夫)。

【意見B】

(読む人の) 興味や関心を (ひと目で) 引きつける (という工夫)。

二

見出しは「感謝のカレー」にしたらどうでしょう。何をしたのかはカレーのひと言で大体分かるし、何に感謝しているのか興味を引きつけることができます。 (七十五字)

○ この問題で身につけてほしい力

○ 友だちが書いたもののよさをとらえて、考える力。

○ 具体的な例を出して、友だちに助言する力。

○ 考え方

一 【意見A】、【意見B】とも、学級新聞の記事の「見出しをどうするか」という内容です。

両方とも、「見出しを書くための工夫」を根拠に説明しています。

【意見A】で根拠になっている文は、次の通りです。

「新聞の見出しは、ぱっと見たときに、記事の内容の大体がわからなくてはいけません。」

【意見B】で根拠になっている文は、次の通りです。

「新聞の見出しは、読む人の興味や関心をひと目で引きつけるようなものであるべきです。」

これらをもとに、考えていけばいいでしょう。

二 二つの【条件】を解説します。

まず、異なる見出しをつけること、という条件です。【意見A】【意見B】それぞれのよさを受けて考えるとよいでしょう。

次に両方の友だちに伝わるように、という条件です。いくら自分の考えを説明しても、根拠のある理由を示さなければ、聞く人が納得できない場合があります。聞く人にも分かりやすく理由を伝えることが大切です。また、理由に加え、「どこをどう直すのか」ということを例として示す(「代案を示す」といいます)ことで、意見をよりはっきりと伝えることができます。

このようにして自分の考えを伝えるときに、大切なことがあります。

○ 相手に投げかけるように伝えること。

○ 相手の表現したいことや、考えのよさを生かして考えること。

「どうですか。」「どうでしょう。」と投げかけるように伝えることで、相手は出された意見を受け止めやすくなります。

また、相手の表現したいことをもとに意見を出すことで、相手は出された意見について考えやすくなります。

このように、相手の立場を考えて出された意見は、「助言」として受け止められるようになっていきます。

以上のことから、正答例は次のような組み立てになっています。

○ 自分の考え (結論)

○ 考えた理由 (【意見A】を根拠に)

○ 考えた理由 (【意見B】を根拠に)

○ 自分の考え (結論)

見出しは「感謝のカレー」にしたらどうでしょう。何をしたのか

はカレーのひと言で大体分かるし、何に感謝しているのか興味を

引きつけることができます。と思います。

小学校第六学年 国語 「新聞記事を書こう」(書くこと)

○ 岩井さんは、メモをもとに、修学旅行の様子を新聞にまとめました。次の「修学旅行新聞」と「岩井さんのメモ」を読み、あとの問いに答えましょう。

【修学旅行新聞】

修学旅行新聞
 六月九日・十日
 仙台・松島の旅

岩手県立中央小学校
 6年1組学級新聞増刊
 「修学旅行新聞」

担当：6年1組1班
 発行日
 平成23年7月12日

修学旅行新聞
歴史博物館を訪問
 古代を体験、みんな大興奮

【リード文】



快晴に恵まれた修学旅行は、班別研修から始まりました。

一行は快晴に恵まれた修学旅行は、班別研修から始まりました。修学旅行は、歴史の学習に強く興味をもっているメンバーが集まった。歴史博物館の見学が、一番の楽しみ。事前学習も、熱が入った。博物館のネットワークで、調べた資料や、展示資料を調べるうちに、歴史の奥深さを感じていく。班別研修で、仲間の力を借りながら、歴史の面白さを共有する。資料集の展示資料を調べるうちに、歴史の奥深さを感じていく。班別研修で、仲間の力を借りながら、歴史の面白さを共有する。資料集の展示資料を調べるうちに、歴史の奥深さを感じていく。班別研修で、仲間の力を借りながら、歴史の面白さを共有する。

【岩井さんのメモ】

修学旅行新聞(一班)・メモ

- ① 六月九日(木)・十日(金)
- ② 仙台・松島方面
- ③ 一日目、班別研修
 歴史博物館 ↓ 水族館 ↓
 偉人記念館
- ④ 歴史博物館
 ・一番の楽しさ
 ・歴史好きチーム
 ・事前学習
 縦穴住居に入れる
 ↓入ってきた。ひんやり。
 石器や土器にさわられる
 ↓実際にさわった
 ・めあて「古代の人の暮らしを想像・体験」
 ・小野一彦(学芸員)さん
 「質問が多い。すごい。熱心に調べたんだな。こんな小学生は初めて。」
 「歴史に対する関心を深めてほしい。」
- ⑤ 水族館

小学校第六学年 国語 「新聞記事を書こう」

○ 正答例

修学旅行一日目。一班の五人は、一番楽しみにしていた見
学場所、歴史博物館を訪ねた。竪穴住居に入ったり、石器
に触れたりするなど、さまざまな体験学習をおこなった。
一班の全員が大興奮。歓声と笑顔があふれた。
(九十九字)

○ この問題で身につけてほしい力

- ① いくつかの文章を組み合わせ、目的に合わせて表現する力
- ② 事実と感想・意見などを区別して書く力。

○ 考え方

一 新聞にはさまざまな種類の記事があります。
主なものをいくつかあげてみます。

- ア** 事件や出来事を知らせる記事(報道記事)
- イ** 新聞社の責任で伝える意見・主張の記事(社説)
- ウ** 短い評論などの記事(かこみ記事・コラム)
- エ** 出来事や物事を解説する記事(解説)

ア これらには、書き方や構成に、それぞれ特徴があります。
問題の新聞記事は、歴史博物館に行ったことを知らせる内容ですから、
アが一番近いと考えられます。

報道記事は、事実を中心に書きます。文章としては、書き手の感想や
意見などを直接的に書かないように気をつけるとよいでしょう。
また、「僕は」「私は」のように自分中心の書き方をしないように気をつけ
ると、ぐっと報道記事らしくなります。
「自分たちのことを、外から別の自分が観察している感じ」で書くのです。

リード文を読むことで記事内容の大体をわかってもらう必要があります。
例えば次のような視点で書けば、読み手に伝わりやすくなるでしょう。

- ・ 基本的な情報(「5W1H」)
- ・ 出来事の内容

「5W1H」は、文中の様子をわかりやすく伝えるときに、大きな役割を果
たします。ただし、**正答例**のように、そのすべてを使わないこともあります。
必要に応じて使い分けましょう。

新聞記事のリード文には読み手に「どんな記事だろう」と興味をもってもら
うというねらいがあります。読み手が興味をもてば、リード文を読んだあと
に記事にも目を通してくれるからです。そのために、出来事の内容をもちこ
んで、「読んでみようかな」と読み手の心に働きかけるのもひとつの手段です。

○いつ ○だれ
修学旅行一日目。 一班の五人は、一番楽しみにしていた
○どこ ○何をした
見学場所、歴史博物館を訪ねた。 竪穴住居に入ったり、
石器に触れたりするなど、さまざまな体験学習をおこなっ
た。 一班の全員が大興奮。歓声と笑顔があふれた。

正答例のリード文は、「岩井さんのメモ」から③・④をもとにまとめられて
います。
一方で、①・②を使って、

○いつ ○だれ ○どこ
六月九日、十日、 中央小学校六年生は、宮城県方面へ修
○何をした ○だれ
学旅行に出かけた。 一班五名は、一番楽しみに……

と書き出す場合があります。むしろ、リード文としてはこちらが基本的と
も言えます。
しかし、「修学旅行新聞」の題名に①、②の内容が含まれています。繰り返
すことで日付や行き先を強調したいのならかまいません。強調するといった意
図がなければ、省略した方がよいでしょう。

小学校第五学年 国語 「推薦する文章を書く」(書くこと) 目標時間 10分

○ 鈴木さんは、自分の好きな詩「七つの子」をくわしく調べ、友だちに推薦する文章を書くことにしました。
 さまざまな資料を調べていくうちに、鈴木さんは、【資料A】、【資料B】の二つの解説文を見つけました。詩と解説文を読んで、あとの問いに答えましょう。

七つの子

野口雨情

鳥からすなぜ啼なくの

鳥からすは山に

※可愛かはい七つの子

子があるからよ

可愛かはい可愛かはいと

鳥からすは啼なくの

可愛かはい可愛かはいと

啼なくんだよ

山の古巢ふるすに

行いつて見て御覧ごらん

丸まるい眼まなこをした

いい子だよ

※ 可愛かはい可愛かはいかわい

【資料A】

「七つの子」とは「七歳の子」という意味です。
 野口雨情が息子さんと裏山に行ったとき、カラスが鳴いていました。その声を「かわいい」と鳴いているのだと、雨情は教えたそうです。

また、雨情は、一時的に息子さんと別れて暮らさなければなりませんでした。

そのとき、息子さんはまだ七歳でした。
 野口雨情は、大切な息子のことを心配に思い、カラスの親子と重ね合わせながら、この詩を書いたのです。

【資料B】

「七つの子」とは「七羽の子」という意味です。

野口雨情は、次のように考えていました。

人に嫌われているカラスだって、本当はかわいいらしい生き物だ。子どもが読む詩の中に生き物を区別するような考え方をに入れてはいけない。

雨情は、自然や命、そして子どもを何より大切に考える人でした。

ですから、カラスのことを人間の子どもをかわいがるようなまなざしで、「可愛」「丸い眼をしたい子」と表現したのです。

一 鈴木さんは、ふたつの解説文を読み、内容のちがいを考えました。
「可愛七つの子」は、カラス、人間のどちらを指していますか。
の中に書きましょう。

【資料A】

| |
|--|
| |
|--|

【資料B】

二 鈴木さんは、【資料A】の解説文を読んで、「七つの子」の詩のことをますます好きになりました。
鈴木さんの立場になって、八十字以上百字以内で推薦する文章を書きましょう。

| |
|--|
| |
|--|

100字 80字

| |
|--------------|
| 組 番 氏名 |
|--------------|

小学校第五学年 国語 「推薦する文章を書く」

○ 解答例

一 【資料A】

人間

【資料B】

カラス

二

【例 1】

野口雨情は、まだ七歳の息子と別れて暮らすことになりました。これは、大切な息子のことを心配に思い、カラスの親子と重ね合わせながら書かれた詩です。子を思う親の気持ちがあふれています。ぜひ読んで下さい。(九十八字)

【例 2】

カラスの鳴き声を「かわいい」と息子に教えた野口雨情。カラスのことを話しながら、実は息子のことを「かわいい」と言ったのです。親のやさしさがぎゅっとつまった、すばらしい作品です。みなさんも読んで下さい。(九十九字)

○ この問題でつけてほしい力

- ① いくつかの資料をくらべて読み、必要な内容を取り出すこと。
- ② 取り出したことを生かして、推薦文にまとめること。

○ 問題の考え方

一 【資料A】の、次の部分に注目します。

「カラスの親子と重ね合わせながら」

野口雨情は、「カラスの親子」を何と重ね合わせたのでしょうか。

【資料A】からは、

- ・ 別れて暮らすことになったまだ七歳の「大切な息子」
- ・ 作者である野口雨情

だと読み取ることが出来ますね。つまり、息子と雨情の親子なのです。ですから、ここでの「可愛七つの子」は、人間 となります。

【資料B】は、次の部分に注目します。

「カラスのことを人間をかわいいがるようなまなざしで」

「人間をかわいいがるような」とあります。これは、「まるでくのような」というように、ほかの物にたとえている表現です。(「比喩」といいます。)

【資料B】で、まるで人間のようにかわいいものとは何でしょう。注目してほしい部分に、「カラスのことを」と書いてありますね。ですから、ここでの「可愛七つの子」はカラス となります。

推薦する文を書くときに、大切なことがいくつかあります。

- ① 効果的に表現するために、資料を使う。
- ② おすすめの物のどんなどころが「よい」のか、具体的に書く。
- ③ 相手にすすめる表現を入れる。

これらのことを、読み手に合わせて、もりこんでいけばよいのです。今回は、読み手が友だちです。様々な書き方が考えられます。ていねいな言葉づかいにしたり、話し言葉のようにしたり、作品の内容や伝えたいことに合わせて書き方を選べばよいでしょう。

- ① については、「鈴木さんの立場になって」と問題に書かれています。鈴木さんは、【資料A】を読み「七つの子」をますます好きになりました。ですから、ここでは【資料A】をもとにして書くことが求められています。
- ② については、資料や詩を読んで「よい」と思うことを書きます。これらに③を加え、八十字以上百字以内という条件でまとめます。

①効果的に表現するために、資料を使う。

カラスの鳴き声を「かわいい」と息子に教えた野口雨情。カラスのことを話しながら、実は息子のことを「かわいい」と

言ったのです。親のやさしさがぎゅっとつまった、すばらしい作品です。

みなさんも読んで下さい。

○ 小学校第六学年 国語 「朗読を工夫しよう」(読むこと) 目標時間10分

○ 野口さんの学級では、来月の読書まつりで全校児童に聞かせる朗読劇を発表することになっています。題材は、宮沢賢治の「グスコープドリの伝記」です。

次の【「グスコープドリの伝記」あらすじ】を読み、あとの問いに答えましょう。

【「グスコープドリの伝記」あらすじ】

グスコープド리는、幼いころに両親をなくした。寒い気候が続き、農作物がとれなくなつたためだ。

生きのびたブドリは拾われて、まゆから糸をとる仕事についた。しかし、火山の噴火によって虫たちは死に、まゆはとれなくなつてしまった。次にブドリは、沼ばたけでオリザという植物を育てる仕事についた。しかし、オリザの病気やひでりによって、たくさんのオリザをとることはできなかった。

成長したブドリは「みんながあんなにつらい思いをしないで沼ばたけを作れるよう」そして「火山の灰だのひでりだの寒さだのを除くくふうをしたい」と思うようになっていた。

やがてブドリは、クーパー大博士と知り合い、イーハトーヴ火山局で仕事をするこゝとになった。火山局では、火山の噴火の向きを変えて近くの町を助けたり、肥料をまぜた雨を降らせて農作物の生長を助けたりした。

ある年のことだった。両親をなくしたときのような、寒い気候がおとずれようとしていた。このままでは、またたくさんの人が死んだり、悲しい思いをしたりすることになる。ものも食わずに何日も考え続けたブドリは、クーパー大博士にこうたずねるのだった。

カルボナード火山島を噴火させて、地球全体を暖かくできないか、と。

クーパー大博士は、地球を平均で五度ぐらゐは暖かくするだろうと答えたが……。

※ ひでり……日照り。雨が降らず、晴れの日ばかり続いて、農作物に必要な

水がかれること。

引用及び参考資料 『青空文庫』 <http://www.aozora.gr.jp/> 『グスコープドリの伝記』 宮沢賢治
 底本：『童話集 風の又三郎』 岩波文庫、岩波書店 1951年4月25日初版
 入力に使用：1997（平成9）年8月4日第70刷 入力：柴田卓治
 校正に使用：1977（昭和52）年5月10日第35刷 校正：松永正敏

一 野口さんは、「【グスコープドリの伝記】あらすじ」に続く場面を班の友だちといっしょに朗読することになりました。そして、よりよい発表にするために、それぞれが朗読の工夫を考えました。次の【朗読の工夫①】、【朗読の工夫②】を読み、あとの問いの答えましょう。

音読の記号

- ・速く読む ——
- ・強調して読む ~~~~~
- ・短い間 <
- ・長い間 >>
- ・ゆっくり読む - - - - -

【朗読の工夫①】

「先生、〇大博士にうったえかけるようにあれ（カルボナード火山島）を今すぐ噴かせられないでしょうか。」

「それはできるだろう。〇残念そこにけれども、その仕事に行ったものうち、最後の一人はどうしても逃げられないのでね。」

「先生、私にそれをやらしてください。どうか先生からペンネン先生へお許しの出るようおことはをください。」

〇ドリをしかるように「それはいけない。君はまだ若いし、いまのきみの仕事にかわれるものはそうはない。」

「私のようなものは、これからたくさんできます。〇大博士にうったえかけるように私よりもっとなんでもできる人が、私よりもっと立派にもっと美しく、仕事をしたり笑ったりしていくのですから。」

私は、ブドリの言葉を、ゆっくり間をとって読みたいと考えています。いくら人々のためとはいえ、自分の命をぎせいにするのはとても不安で苦しいことです。だからこそ「私がやります。」という強い言い方でなく「やらしてください。」という少し弱い表現になったのではないのでしょうか。このことから、私は、ブドリが自分の不安と向き合う心情を表現するために、間をとってゆっくり読みたいと考えています。

【朗読の工夫②】

「先生、あれ（カルボナード火山島）を今すぐ噴かせられないでしょうか。」

「それはできるだろう。◀けれども、その仕事に行ったものうち、最後の一人はどうしても逃げられないのでね。」

「先生、私にそれをやらしてください。どうか先生からペンネン先生へお許しの出るようおことをください。」

○ブドリをしかるように

「それはいけない。君はまだ若いし、いまのきみの仕事にかわれるものはそうはない。」

○はきはきと

「私のようなものは、これからたくさんできます。私よりもっとなんでもできる人が、私よりもっと立派にもっと美しく、仕事をしたり笑ったりしていくのですから。」

○力強く

私は、ブドリの言葉を、明るさを強調して読みたいと考えています。

「私よりもっと」とブドリはくり返しています。これは、ブドリのぎせいにより寒い夏のせいで死なずにすむ人たちと、その人たちが作る未来に希望をもっているという事です。ブドリは自分のやることに納得しているはずです。

だから私は、ブドリの言葉を、強い決意をした様子を表現するために、明るさを強調して読みたいと考えています。

(1) 二つの【朗読の工夫】に共通することは何ですか。あてはまらないものを次の1から4までのの中から
選び、□に書きましよう。

- 1 間の取り方や声の速さで表現を工夫している。
- 2 登場人物の心情を考えて表現を工夫している。
- 3 台本の形に直して表現を工夫している。
- 4 具体的な読み方を書き加えて表現を工夫している。

(2) 二つの【朗読の工夫】は、なぜ表現が大きくちがっているのでしょうか。両方をくらべながら、説
明ましよう。

小学校第六学年 国語 「朗読を工夫しよう」

○ 正答例

一 (1) 3

(2) 朗読の工夫①は、ブドリが不安で苦しんでいると考えているが、工夫②はブドリが未来に希望をもち自分のやることに納得していると考えているから、表現が大きくなりつつある。

朗読の工夫①は、ブドリが不安と向き合っている様子を表そうとしているが、工夫②はブドリが強い決意をもって表そうとしているから。

など

(3)

自分の命をぎせいにする。苦しいことであり、ブドリは実際に何日も考え続けている。だから、ブドリは苦しさを乗りこえるためこの言葉を自分にも言い聞かせたと考えられる。そこで、ひと言ひと言をかみしめるようにゆっくりと朗読する。(百九字)

ブドリは自分の身をぎせいにしても、多くの人たちの未来を守りたいと考えている。何日も考えたのだから、ブドリの中では、もう自分の行動を決めていたと考えられる。だから、きっぱりと力強く、ブドリの決意を表現するように朗読する。(百八字)

など

○ この問題で身につけてほしい力

○ 感じたことや考えたことを朗読を通して表現する力

○ 考え方

一 (1)

- 1 は音読の記号に示されている内容です。
- 2 は、【朗読の工夫】を説明する文章に書かれている部分です。
- 4 は、音読の記号のなかに書きこまれている「○残念そうに」のような表現のためのメモのことです。
- 3 のように、台本に直しす工夫は、ここでは行われていません。

(2)

正答例を二つ示しました。ひとつ目は「ブドリの心情をどう考えるか」という視点でまとめたものです。ふたつ目は「どのように表現を工夫しようとしているか」という視点でまとめたものです。こうした視点から【朗読の工夫】をくらべていきます。

○【朗読の工夫①】に見られるブドリの心情

朗読の工夫①は、ブドリが不安で苦しんでいると考えているが、【朗読の工夫②】に見られるブドリの心情
工夫②はブドリが未来に希望をもち自分のやることに納得していると考えているから、表現が大きくなりつつある。

(3)

朗読は、音読の表現を発展させたものです。
音読……内容や文章の表現をよく理解して、聞く人にも伝わるように読む。

朗読……読んで考えたことや感じたことを、聞く人に伝わるように表現しながら読む。

文章を通して、あなたが考えたり感じたりすることが、朗読をするための大切な第一歩です。

自分で表現の仕方を工夫し、あるいはすぐれた表現の仕方を参考にしながら朗読することで、読み手の思いが聞き手に伝わります。

ここでは、読み取ったブドリの心情を根拠に、あなたがどのように表現するのかを説明します。

○根拠となるブドリの心情

自分の命をぎせいにする。苦しいことであり、ブドリは実際に何日も考え続けている。だから、ブドリは苦しさを乗りこえるため

この言葉を自分にも言い聞かせたと考えられる。そこで、ひと言

ひと言をかみしめるようにゆっくりと朗読する。(百九字)

小学校国語科活用問題一覽表①

「A 話すこと・聞くこと」

| 六 | | | | | 五 | | | | | 学年 問題番号 | 問題 | 問題の概要 | 学習指導要領との関連 |
|----|----------|-----------|------------|---------|---------|----------|-------|----------|-------------|------------|--------------------------------|---|------------|
| 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | |
| | スピーチをしよう | 一年生に説明しよう | インタビューをしよう | 討論会をしよう | 意見を伝えよう | スピーチをしよう | 反論しよう | 全校に説明しよう | 役割に沿って話し合おう | | 話し合い活動における司会の役割を基に、議論の内容をとらえる。 | ア 伝えられたことや、伝えられたことなど、話し合ったこと、話し合ったこと、話し合ったこと、話し合ったこと、話し合ったこと。 | |
| | スピーチをしよう | 一年生に説明しよう | インタビューをしよう | 討論会をしよう | 意見を伝えよう | スピーチをしよう | 反論しよう | 全校に説明しよう | 役割に沿って話し合おう | | 話し合い活動における司会の役割を基に、議論の内容をとらえる。 | イ 伝達場面や、話し合ったこと、話し合ったこと、話し合ったこと、話し合ったこと、話し合ったこと。 | |
| | スピーチをしよう | 一年生に説明しよう | インタビューをしよう | 討論会をしよう | 意見を伝えよう | スピーチをしよう | 反論しよう | 全校に説明しよう | 役割に沿って話し合おう | | 話し合い活動における司会の役割を基に、議論の内容をとらえる。 | ウ 共通語と方言の使い分けや、話し合ったこと、話し合ったこと、話し合ったこと、話し合ったこと、話し合ったこと。 | |
| | スピーチをしよう | 一年生に説明しよう | インタビューをしよう | 討論会をしよう | 意見を伝えよう | スピーチをしよう | 反論しよう | 全校に説明しよう | 役割に沿って話し合おう | | 話し合い活動における司会の役割を基に、議論の内容をとらえる。 | エ 話し合ったこと、話し合ったこと、話し合ったこと、話し合ったこと、話し合ったこと。 | |
| | スピーチをしよう | 一年生に説明しよう | インタビューをしよう | 討論会をしよう | 意見を伝えよう | スピーチをしよう | 反論しよう | 全校に説明しよう | 役割に沿って話し合おう | | 話し合い活動における司会の役割を基に、議論の内容をとらえる。 | オ 話し合ったこと、話し合ったこと、話し合ったこと、話し合ったこと、話し合ったこと。 | |
| | スピーチをしよう | 一年生に説明しよう | インタビューをしよう | 討論会をしよう | 意見を伝えよう | スピーチをしよう | 反論しよう | 全校に説明しよう | 役割に沿って話し合おう | | 話し合い活動における司会の役割を基に、議論の内容をとらえる。 | 他領域及び他学年の指導事項との関連 | |

小学校国語科活用問題一覧表②
「B書くくくく」

| 六 | | | | | 五 | | | | | 学年 | 問題番号 | 問題 | 問題の概要 | 学習指導要領との関連 | | |
|----|---|-------------------------|---|---|---|-------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------|----|------|----|-------|------------|--------------------------------|---|
| 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 問題 | | | | | 問題の概要 | |
| | | 作品を推敲しよう | 意見文を書こう | 新聞記事を書こう | | 活動を報告しよう | 意見文を書こう | 推薦する文章を書こう | 自由研究の『考察』を書こう | | | | | | | |
| | | 友だちの助言を基に、随筆の表現を工夫して書く。 | 資料を用い、構成についても考えながら、意見文に説得力をもたせるように表現する。 | 新聞の構成を生かし、見出しや本文の内容を適切に押さえつつ、リード文にまとめる。 | | 委員会活動の内容をリーフレットにまとめ、下級生に報告する。 | 意見文から主張を読み取り、ポスターに書く文に直して表現する。 | 詩と評論文を読み比べ、作品の良さを友だちに推薦する文章を書く。 | 複数の資料を使い、自由研究の「考察」をまとめる。 | | | | | | | |
| | | | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | | | ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 |
| | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | | | イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 |
| | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | ウ 事実と感想、意図などを区別し、目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 |
| | | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。 |
| | | ○ | | | | | | | | ○ | | | | | | オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 |
| | | ○ | | | | | | | | | | | | | カ 書いたものを発表し、表現の仕方に着目して助言し合うこと。 | |
| | | | | Cウ | | Cイ | C力 | | | C力 | | | | | 他領域及び他学年の指導事項との関連 | |

小学校国語科活用問題一覽表③

「C 読む」として

| 六 | | 五 | | | | | | | | 学年 問題番号 | 問題 | 問題の概要 | 学習指導要領との関連 |
|----|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|------------------------------|----------------------------|----------------------|---------------------------|------------------------------|--------------------------|------------|---|------------------------------|------------|
| 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 問題番号 | | | |
| | 随筆を読む | 説明文を読む | 資料を読み、仮説を立てよう | 朗読の工夫をしよう | 朗読劇をしよう | 説明文を読む | 物語文を読む | 放送原稿をまとめよう | 感想文の表現を工夫しよう | | 感想文の表現を工夫し、自分の感想文を推敲する。 | ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 | 学習指導要領との関連 |
| | 随筆を読み、優れた表現を読み味わい、自分の表現に生かす。 | 二つの説明文を読み、筆者の主張の共通する部分を読み取る。 | 複数の資料を読み取り、仮説を立て、その理由を説明する。 | 朗読の工夫を人物の心情を基に表現し、その理由を説明する。 | 物語文を読み、朗読劇にするための台本としてまとめる。 | 説明文と資料の関連を読み取り、説明する。 | 一つの物語文を読み、作品に共通する内容を読み取る。 | 取材内容を基に昼の放送で使う原稿に必要な要素を読み取る。 | 感想文の工夫を読み取り、自分の感想文を推敲する。 | | イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。 | | |
| | | | | | | | | | | | ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて、要領や関係性を明らかにしながら読むこと。 | | |
| | | | | | | | | | | | エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 | | |
| | | | | | | | | | | | オ 本や文章を読んで考えたことを発表し、自分の考えを深めたり広げたりすること。 | | |
| | | | | | | | | | | | カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むこと。 | | |
| | | | | B 才 | | | | | | | 他領域及び他学年の指導事項との関連 | | |